

第2回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会 (全国農業協同組合中央会 (JA 全中))

日時：令和3年1月14日(木) 11:00~12:00

場所：オンライン開催

参加者：別紙参照

【先方コメント概要】

- JAグループも昨年5月に「JAグループSDGs取組方針」を策定。持続可能な食料生産と環境負荷の軽減等は、我々の認識や方向性と一致しており、一緒に取り組んでまいりたい。
- 農業の持続可能性を高めるためには、環境に配慮しながらも、農業者が十分な所得を確保できる持続可能な経営が重要。
- 生産者に加え、消費者も環境に対する意識の転換が重要。作り方や購入にあたっての考え方などを大きく変えられるよう、国民運動の一環として展開していくことが必要。
- 新たな技術開発・品種開発等にあたっては、環境の視点を今まで以上に重視するとともに、このことが農家に分かりやすく伝わり、意識転換できるようにすべき。
- 人手不足が深刻ななか、省力化や低コスト化などの具体的な取組モデルの提示が必要。
- 今回の戦略は大きな政策転換であり、基本計画にも位置づけるべきではないか。
- 具体的な数値目標は必要であり、関係者が大きく変わっていかうと意欲を持って取り組める目標を設定する必要。また、地域・品目にあつた目標等の設定や、技術革新とあわせた具体的な道筋の提示など、現場が納得して取り組めることが重要。
- 直接支払の拡充をはじめ、多面的機能の発揮・環境保全等の観点から、農地・水田農業を維持していくことも政策のグリーン化

で具体化する必要。

- 現場の関係業者への影響が大きいため、調達分野も含めて関係者との十分な意見交換を行いつつ、ビジネスモデルの転換に対する支援も必要。
- グループ内で組織的な議論を行い、政策提案等を整理する予定。引き続き、意見交換をお願いしたい。

(以上)

(別紙)

第2回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会
(全国農業協同組合中央会 (JA 全中))
出席者一覧

なかや とおる
中家 徹 代表理事会長

ばば としひこ
馬場 利彦 専務理事

にし の つかさ
西野 司 農政部長

かじうら のりと
梶浦 紀徒 農政課長